

2026年ジャスラック理事選挙

理事候補者(作曲者区分)

蘭 一 二 三



皆様よろしくお願ひ申し上げます

2011年より15年間、公益社団法人日本作曲家協会理事を務めさせていただいております

私たちは蘭一二三さんを推薦します



作詞家
たきのえいじ

蘭一二三さんは作曲家で編曲家でもあります。長年作家活動をされ、約25年前、日本音楽振興会をひとりで立ち上げ、歌の素晴らしさを全国に伝え、沢山の仲間を作ってくれました。そして、新しい時代での作家の権利を守る事に情熱を注いでいらっしゃいます。デジタルネットワークが広がる今、JASRACと共に責任を持って活動してくれる方と信じ、私は彼を推薦します。



シンガーソングライター
堀江 淳

蘭一二三さんとの出会いはご自身が立ち上げた日本音楽振興会を通してでした。カラオケ大会を開催して一般の方々に音楽の楽しみを多く広めるなど、作曲家にとどまらない活動はとても素晴らしいと思います。温厚な性格でありながら、新しい事に挑戦する蘭一二三さんは僕の推しの音楽家です。



歌手・作詞家
崎島じゅん

「挑み続ける音楽人」
先生は、確かな実績に安住することなく、常に新しい扉を開く真のチャレンジャーです。『ずっと愛してる』をはじめ、作詞に関わらせていただいた楽曲の数々は、誠実に尽きない探究心から生まれた宝物。音楽にも人にも真摯に向き合う姿勢は、私たち歌手の大きな刺激であり信頼の証です。先生の新たな挑戦が、どんな景色を見せてくれるのか、心から楽しみにしております。

このたびJASRACの理事選挙(作曲者区分)に立候補することになりました蘭一二三と申します。立候補を表明するにあたり「JASRAC概論」や他の書物を手に入れ勉強いたしました。現在あらゆる分野でデジタル化が進み、数えきれない音楽が毎日世界中で発信されています。ダウンロードから始まりサブスクリプションサービスと音楽ビジネスのスピードの早さに1年後、2年後どのようになるのか期待と不安が交差します。今迄は好きな音楽を制作して、JASRACに徴収と分配を任せていれば何とかかなと思っていましたが、音楽著作権が適切に守られ、作家の収入が守られなければ音楽文化の発展はなく、安心して創作活動もできません。2024年11月に施行された「フリーランス法」やジャスラック管理楽曲の利用に関して米国Muserk(ミューザーク)社に管理を委託した地域(米国以外の33か国)からの分配も開始されたという明るいニュースもあります。人間にとって音楽はなくてはならないものです。「素敵な歌」「感動する歌」「楽しい歌」が世界中に溢れていれば多くの人が楽しい人生をおくれる事でしょう。皆さんは歌作りで人を幸せにすることができる素晴らしい仕事をされています。また世界平和にも貢献している事でしょう。私はジャスラック会員の皆様の権利と音楽文化を守る為に働かせていただきたく思っております。皆様、どうか応援のほどよろしくお願い申し上げます。

蘭 一二三



どのようにして作曲家になれたか

恩師との出会い



私は10代の頃に、どのような仕事をしたいとか、将来何になるとか考えもなく、東京に行けば何かならだろうと思い上京しました。

東京に少し慣れてきた頃、暑さをしのぐ為、白金台の「レモン」というスナックへアイスコーヒーを飲みに行き、そこで、私の人生を大きく変えることになる、馬飼野俊一先生との出会いがあったのです。馬飼野先生は、和田アキ子さんの「笑って許して」で、レコード大賞・編曲賞を受賞されました。その受賞式を、偶然、田舎のテレビで見ていた私は、「あの作曲家の先生だ〜!」と思い、何とか音楽を教えていただけないものかと考えていました。

その後、「レモン」で再びお会いした際にご挨拶をすると、先生は奥様と笑いながら、「今度、遊びにおいでよ」と声をかけてくださいました。当時の先生は、毎月100曲以上もの編曲依頼を受ける超売れっ子で、睡眠時間は3~4時間というハードな生活を送っていらっしゃいました。それにもかかわらず、仕事が終わった夜中の12時頃に連絡をすると、私のために時間を割いてくださり、音楽の話はもちろん、夜中に奥様とお二人で食事を作って、ご馳走して下さいました。それから15年後には、「蘭一二三」というペンネームまでつけていただきました。先生に出会わなければ、私・蘭一二三は存在せず、日本音楽振興会もなかったことでしょう。また、ピアニストや作曲家になることもありませんでした。現在はお互いに忙しく、年に何度もお会いすることはできませんが、私にとって先生は、心から尊敬する作曲家であり、かけがえのない恩人です。皆さまにも、人との出会いを大切にしたい、そんな思いから、約50年前の恩師との出会いを書かせていただきました。

[日本音楽振興会ホームページより引用]

馬飼野俊一&蘭一二三の師弟対談がカラオケファン4月号(2026年2月20日発売)に掲載されます。



JASRACの社員の皆様へ、いつも感謝を込めて

素晴らしい作家仲間！素晴らしいJASRAC！

私はCD制作等で、何か分からない事があれば、直にジャスラックの資料部や会務部に相談に伺います。皆さん優しい方ばかりで丁寧に分かり易く説明して下さいます。多い時は月に5回ほど相談に伺いましたが、社員の皆さんはいつも笑顔で接して下さいました。だからジャスラックには感謝しております。そして総会や事業報告会後の懇親会で大勢の会員と親しくさせていただき仲間も増えました。これもジャスラックがあるからこそ皆様と知り合え、楽しい音楽人生を歩んで行けるのだと感謝しております。これからも皆様と一緒に、夢を持って、音楽活動を続けていきたいと思っております。

JASRAC NOWを読んで

昨年12月に日本音楽著作権協会会報「JASRAC NOWのNo.815(2025年12月号)」に目を通していましたら、素晴らしい活動をされている二口とみゑ様(HOPEプロジェクト代表理事)と矢川光則様(矢川ピアノ工房の取締役)の「第12回JASRAC音楽文化賞受賞者」が紹介されていました。お二人とも広島にお住まいの方で「被爆ピアノ」の演奏会の話が書かれていました。二度とあのような悲惨な戦争が起きないようにとの思いで「平和の種まき」をしているそうです。そして演奏会でのピアノの音色は「やさしく穏やかな気持ちになる」と言う人が多かったようです。

「音楽文化賞受賞者」は売り上げや利用実績の数字には表れない地道な活動を行っている個人・団体・作品等に光をあて、音楽文化の発展に寄与した功績をたたえ顕彰するもの。その他「会員・信託者のための相談窓口」や「長期ご契約者への感謝状贈呈式」「代々木上原JASRACまつり」「作品届けや編曲届けの締切」等々。JASRAC NOWを読んでもらえば「JASRAC」の情報はほぼ分かるようになっていきます。

そして今年、JASRACは港区赤坂に移転が決まっています。代々木上原は大好きな街ですが、赤坂も素敵な街です。会員の皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

歌作りは世界平和へ繋がる

ジャスラック会員の皆様の歌作りは世界平和へ繋がっていると信じてやみません。素晴らしい作詞家、作曲家、編曲家の方々、そして音楽出版社が繋がり協力しあい音楽産業が成り立っていると感じております。その他、音楽業界で私達を支えて下さっている多くの皆様に感謝しております。



蘭 一二三 プロフィール

本名：長谷川浩司
(はせがわ こうじ)
1954年5月31日生
滋賀県犬上郡豊郷町出身

日本作曲家協会理事
日本音楽振興会会長

昭和45年 上京
 昭和46年 作・編曲家 馬飼野俊一先生に会い師事する。
 昭和50年 都内のナイトクラブでピアニストとして16年間活動。
 平成元年 第31回日本レコード大賞 企画賞受賞の
 「職人さん／歌手：牧村三枝子」に作曲家として参加。
 平成7年 金田たつえの「風の追分みなと町」が30万枚のヒット曲となる。
 平成12年 日本テレビ「ウリナリ」で作られた「東京LOVE／歌手：黒幕&愛人」が
 オリコン初登場で2位(歌謡曲部門)になる。
 平成13年 カラオケ愛好者の任意団体として日本音楽振興会を創立。
 平成30年 高宮城せいじをプロデュース。
 デビュー曲「横浜ブルース」より USEN リクエスト1位を10曲(カップリング曲含む)。

- 月刊歌謡曲誌上において約10年間、作曲編曲講座を務める。
- 国際楽譜出版ポール・モーリアの作品をエレクトーン用に編曲して出版。

- ♪ ずっと愛してる／崎島じゅん ————— 作編曲
- ♪ 東京ルージュ／東京倶楽部 ————— 作編曲
- ♪ 風の追分みなと町／金田たつえ ————— 作曲
- ♪ 東京LOVE／黒幕&愛人 ————— 作曲
- ♪ さよならのルージュ／村上ゆうこ ————— 作曲
- ♪ 私の青春～加茂さくら物語～／伊藤真名美 ——— 作詞、作編曲
- ♪ Superstar's Showtime!／チームショータイム — 作編曲

YouTube
146万回再生
ロングヒット!



ずっと愛してる

共作



東京ルージュ

通信カラオケDAMに135曲配信(2026年1月現在)

社会貢献

世界中の人々が歌を通して仲良くなれば世界が平和になります。

みんなが共に歌うことで笑顔になり幸せな気持ちになれる、そんな歌の力を信じて日本音楽振興会は運営しております。

当会は「音楽で人を元気にしたい」「社会を明るくしたい」という理念のもと

作曲家・蘭一二三が2001年に創立したカラオケ愛好者の為の会です。

蘭一二三が作曲した「日本の絆／アルバムCD・33曲収録」の収益金と
加茂さくら氏の寄付100万円で13台の電子ピアノを福島県の小学校に寄付。



福島市の三河台小学校(佐久間裕晴校長)の体育館にて寄贈式 2014年4月16日